

グランプリ作品を展示

筑波学院大生

クレオ 交流広場 空間デザイン の壁掛け

つくば市吾妻のつくばクレオスクエア交流広場プラザ・パフォーマンスギャラリーに1日、筑波学院大3年川澄奈々さん（20）のデザインした涼しげなタペストリー（壁掛け）が登場した。同大生14人参加による空間デザインコンペのグランプリ作品を採用した。31日まで展示し、9月には準グランプリ作品に掛け替えを予定する。

7月の市民一般投票や審査を経て賞を決定。全体で縦約3尺、横幅約9尺になるタペ

ストリーになって、吹き抜け空間に飾られた。

「金魚すくい」と題したグランプリ作品は、涼しげな場所を表現。川澄さんは「水と言えは何かと考え、夏の祭りの金魚すくいを思いついた」という。パソコンのデザインソフトを用いて制作に挑戦し、水の部分は水彩画タッチに仕上げた。

川澄さんは暑い中、外で遊んだりちよっと休んだ時に涼しい気持ちになっていただければ」と話していた。

準グランプリは助川友香さんの「日本の夏」、渡辺夢さんの「よぞら」が受賞した。1日に会場で表彰式があり、審査委員長のつく



グランプリ受賞タペストリーと受賞者の川澄奈々さん（中央）、準グランプリの渡辺夢（左）と助川友香さん＝つくば市吾妻

ば都市交通センターの宮本保宏理事長から賞状が手渡された。

同広場を題材にしたコンペは同大地域デザインセンターと、広場と一体的な駐車場を管理するつくば都市交通センターの連携企画。視覚を通して涼しさを提供しようと、デザイン教育の一環で昨年に続き行われた。

（橋本ひとみ）